

高等学校国語解答用紙 (解答例)

その1

得点			
----	--	--	--

受検番号	
氏名	

[一]

(一)	(7) 戦慄	(4) 作法	(9) 曖昧	(11) 妥当	(14) 概括
(二)	作者その人の内なるひそかな発言をその核として持つこと				
(三)	30 作者側の立場だけに立つた現在の一般的な小説成立観では不十分であり、読者側の、密室で一人で読む所に来たという条件が不足しているということ。				
(四)	叙情詩は、懺悔以外で内心のうめきを決らすことなどができなかつた時代に、音楽と韻律によつて情感を抽象化し、美しく詠嘆の心が表現されることか、ひそかに内心の情感を吐き出すことができたということ。				
(五)	公衆の中にいる時の、分散した気の配り方と多数人の感動の集積としての感銘のしかたを予定して作られ、客観的な性質を持つものとして公衆の前で朗読されながら伝えられ、しだいに形作られていった。				
(六)	迫真の告白と、作者個人のものであった悪と罪の意識、懺悔を芸術にまで高めること。				
(七)	二十世紀文学は、内密なる個我の発露の芸術としての新しい小説と新しい詩から形作られ、告白と懺悔を基調として持ち、個人のエゴと人間社会や既成道徳との間で葛藤し、救いを求める呻きを帯びていること。				
(八)	日本の近代のように、秩序が人間性を押さえつける形で強く存在していた時代にあつては、作者自体が現世とその秩序から逃亡して、エゴの確立を表現するほかなかつたので「逃亡奴隷」と論評した。				

100

[二]

(一)	ア 坪内逍遙	イ 鴨長明	ウ 井原西鶴	エ 大岡昇平
	オ 阿仏尼	カ 藤原定家	キ 松永貞徳	ク 上田秋成
(二)	イ ↓ カ ↓ オ ↓ キ ↓ ウ ↓ ク ↓ ア ↓ エ			

[三]

(一)	意味 (7) あどけない様子で	(4) 無礼で
	読み (9) きちやう	(11) こはじとみ
(二)	(a) 打消の接続助詞	(b) 断定の助動詞「なり」の連用形
	(c) 過去の伝聞の助動詞「けん」の連体形	